



イーブイエー  
ダイレクト年金 e-VA

新変額個人年金保険(無配当)  
特別勘定グループ(GW)

# 月次運用実績レポート

## 2015年1月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(GW)	インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(GW)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
海外株式型(GW)	ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)	ステート・ストリート・グローバル ・アドバイザーズ株式会社
新興成長国株式型(GW)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
海外債券型(GW)	ピムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用)	ピムコジャパン リミテッド
日本債券型(GW)	MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用)	みずほ投信投資顧問株式会社
海外リート型(GW)	ノムラ海外REIT インデックス ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(GW)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>



アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3  
TEL 0120-933-399  
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

特別勘定名称

# 日本株インデックス型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株インデックス型(GW)	1.11%	7.03%	12.56%	17.83%	6.77%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4%
投資信託	95.6%
合計	100.0%

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
インデックスファンド225VA	7.70%	13.77%	20.01%	27.97%	6.41%
日経平均株価(225種・東証)	7.68%	13.15%	18.50%	26.16%	5.27%
差異	0.02%	0.63%	1.51%	1.81%	1.14%

### <純資産総額>

純資産総額	105.58億円
-------	----------

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。  
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。  
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

### <株式組入上位10業種>

業種名	ファンドのウェイト
1 電気機器	17.50%
2 小売業	12.14%
3 情報・通信業	10.83%
4 化学	7.95%
5 輸送用機器	7.27%
6 医薬品	7.13%
7 機械	5.19%
8 食料品	4.90%
9 精密機器	2.75%
10 サービス業	2.71%

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

### <株式組入上位10銘柄>

銘柄名	ファンドのウェイト
1 ファーストリテイリング	9.72%
2 ソフトバンク	4.61%
3 ファナック	4.39%
4 KDDI	3.69%
5 京セラ	2.31%
6 アステラス製薬	2.02%
7 東京エレクトロン	1.87%
8 ダイキン工業	1.83%
9 信越化学工業	1.73%
10 トヨタ自動車	1.69%

(組入銘柄数 225銘柄)

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

### <資産構成>

株式	99.37%
一部上場	99.37%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	0.28%
株式実質	99.65%
現金その他	0.63%

※当ファンドの実質の組入比率です。

### <運用コメント>

1月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比プラス1.28%と上昇しました。  
 上旬は、原油や銅などの価格下落を背景に世界的に景気減速への懸念が強まったことを受けて、株価は下落しました。中旬は、原油安などの継続や円高への推移などが株価の重しとなる一方で、欧州中央銀行(ECB)による追加金融緩和への期待などが下支えとなり、株価はもみ合いとなりました。下旬は、ECBが市場予想を上回る規模の量的金融緩和を決定したことや、ギリシャの新政権はユーロからの離脱をめざさないとの期待が広がったことなどを好感し、株価は上昇しました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 日本株アクティブ型(GW)

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用方針

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株アクティブ型(GW)	▲0.02%	4.80%	7.73%	13.23%	▲4.04%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.5%
投資信託	95.5%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

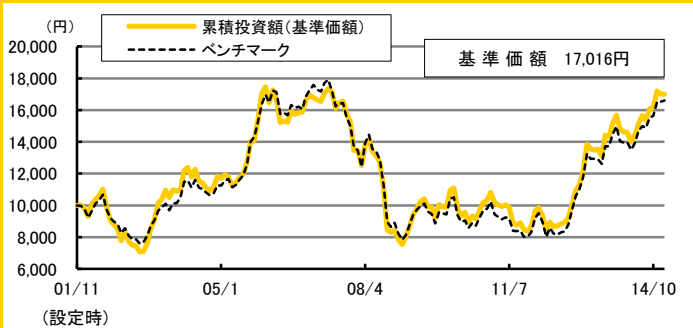
【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投資株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

### 設定来の運用実績 (2015年1月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。  
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

### <運用コメント>

当月の東京株式市場は、前半に調整を強いられたものの後半になって切り返し、月間では若干の上昇となりました。原油価格の下落が加速する中、エネルギー産業や産油国が被る負の影響に対する警戒感が高まったことで米国株が急落、それを受けた日本株も年明け早々から大幅な調整に見舞われました。先行きの不透明感からリスク回避の姿勢が強まり、世界的に株式市場から債券市場へと投資資金の移動が続きました。月半ばに、スイスの中央銀行が対ユーロで設けていたスイスフラン相場の上限を撤廃したことで、欧州中央銀行(ECB)による量的金融緩和策導入が近いとの観測から、日本株も底値を探る動きとなりました。そして緩和期待の高まりと共に相場は下値を切り上げ、実際にECBが市場予想を上回る規模の量的緩和策を決定すると、日本株は一段高となりました。ギリシャの総選挙では反緊縮政策を掲げる急進左派が圧勝したものの、ユーロ離脱の懸念は小さいとの見方から悪材料出尽くしと受け止められ、日本株は堅調な推移のまま高値圏にて月末を迎えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+0.54%、日経平均株価は+1.28%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

商品概要	
形態	追加型投信/国内/株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2015年1月30日現在)					
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.06%	5.27%	8.67%	14.88%	70.16%
ベンチマーク	0.54%	6.25%	10.70%	18.28%	66.07%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。  
※ベンチマーク:TOPIX(配当金込)

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)	
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円

純資産総額 797.4 億円 (2015年1月30日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2014年12月30日現在)			
順位	銘柄	業種	比率
1	ミスミグループ本社	卸売業	3.4%
2	日立製作所	電気機器	3.3%
3	ソフトバンク	情報・通信業	2.8%
4	日本電産	電気機器	2.6%
5	東レ	繊維製品	2.6%
6	マキタ	機械	2.6%
7	シノ	輸送用機器	2.4%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.3%
9	横河電機	電気機器	2.2%
10	三菱電機	電気機器	2.0%
組入銘柄数: 243			上位10銘柄合計 26.0%
			(対純資産総額比率)

### ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2014年12月30日現在)

#### <資産別組入状況>

株式	98.6%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	0.1%
現金・その他	1.4%

#### <市場別組入状況>

東証1部	96.9%
東証2部	0.6%
ジャスダック	0.8%
その他市場	0.3%

#### <組入上位5業種>

電気機器	22.0%
輸送用機器	11.0%
機械	9.9%
サービス業	5.2%
化学	4.7%
(対純資産総額比率)	

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

\* ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含めず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外株式型(GW)	▲4.31%	7.83%	11.29%	20.68%	31.67%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4%
投資信託	95.6%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

【参考】 海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1 (適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1	▲ 4.37%	8.48%	12.47%	23.16%	170.92%
MSCIコクサイ インデックス (円換算)	▲ 4.23%	8.78%	13.12%	24.69%	208.57%
差異	▲ 0.14%	▲ 0.30%	▲ 0.65%	▲ 1.53%	▲ 37.65%

### <総資産総額>

純資産総額 7,467百万円

### <組入銘柄数>

銘柄数(マザーファンド) 1,323

### <外国株式組入上位10銘柄>

順位	銘柄名	投資国名	業種名称	比率
1	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.3%
2	EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	1.2%
3	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.0%
4	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.9%
5	WELLS FARGO COMPANY	アメリカ	銀行	0.8%
6	NESTLE SA-REG	スイス	食品・飲料・タバコ	0.8%
7	GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	0.8%
8	PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	0.7%
9	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.7%
10	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	0.7%

※マザーファンド・ベース  
※比率は対純資産で計算しています。

### <信託財産構成比>

項目	国名	比率	
外国株式	[全体]	95.1%	
	<北米>	アメリカ	63.8%
		カナダ	3.8%
	<アジア・太平洋>	オーストラリア	4.9%
		香港	2.9%
		シンガポール	1.3%
		ニュージーランド	0.6%
		ヨーロッパ	0.1%
	<ヨーロッパ>	イギリス	26.2%
		フランス	8.3%
		ドイツ	3.9%
		スイス	3.7%
		オランダ	3.7%
		オランダ	1.1%
イタリア		0.9%	
スペイン		0.9%	
スウェーデン		1.3%	
フィンランド		1.2%	
<ヨーロッパ>	ベルギー	0.4%	
	アイルランド	0.5%	
	デンマーク	0.1%	
	ノルウェー	0.1%	
<アフリカ・中東>	ポルトガル	0.1%	
	オーストリア	0.1%	
	イスラエル	0.2%	
その他(現金及び株価指数先物)		4.9%	

※マザーファンド・ベース  
※比率は対純資産で計算しています。

### <運用コメント>

1月の外国株式市場は、世界的な景気減速懸念の高まりから上旬はいずれの市場も下落基調での推移となりましたが、中旬以降は企業業績の動向や金融政策の方向性の違いから地域によって格差がみられ、欧州およびアジア市場では上昇基調に転じた一方で米国市場では方向性に乏しい展開が続きました。米国株式市場は、初日は様子見姿勢から小動きとなりましたが、週明けの5日にはWTI原油先物価格が50ドルを割り込んだことからエネルギー株を中心に大幅下落となりました。その後は、軟調な原油価格が投資家のセンチメントを冷やす一方で、良好な経済指標や好調な企業決算を受けた押し目買いの動きも根強く、中旬にかけては一進一退の動きとなりました。しかし、月末にかけては昨年12月の製造業耐久財受注が市場予想に反して減少したことやテクノロジー関連企業の決算が不調だったことが嫌気され再び軟調な推移となりました。結局、ダウ平均は17,164.95(前月比-3.69%)、ナスダック総合指数は4,635.24(前月比-2.13%)、S&P500指数は1,994.99(前月比-3.10%)で終了しました。

欧州株式市場は、初日にユーロ圏製造業購買担当者指数(PMI)が下方修正されたことから下落して始まった後、翌週の前半までは原油安やギリシャのユーロ圏離脱懸念が相場の重しとなり軟調な推移が続きました。しかし、7日に昨年12月のユーロ圏消費者物価指数が予想以上に低下したことで欧州中央銀行(ECB)による景気刺激策に対する期待感が高まると市場は一転して上昇基調となり、下旬まで終始堅調な推移が続きました。英FT指数は6,749.40(前月比+2.79%)、仏CAC指数は4,604.25(前月比+7.76%)、独DAX指数は10,694.32(前月比+9.06%)で終わりました。

アジア株式市場では、オーストラリア市場は資源安が嫌気されて中旬まで緩やかな下落基調が続きましたが、下旬に入ると欧州の金融緩和期待や原油価格下落の不服感から大きく反発しました。香港市場は、中国政府による景気刺激策に対する期待感が市場センチメントを支えし月間を通して堅調に推移しました。豪ASX200指数は5,588.32(前月比+3.28%)、香港ハンセン指数は24,507.05(前月比+3.82%)で終わりました。

外国為替市場は、原油価格の大幅下落や、スイス国立銀行(SNB)による自国通貨の対ユーロに設けていた上限の予想外の撤廃を受けて、金融市場でリスク許容度が悪化したことを背景に、スイスフランを除き日本円は主要通貨全般に対して上昇しました。円は対米ドルで月間1.91%上昇の118.25円となりました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンスは前月比-4.23%となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 新興成長国株式型(GW)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
新興成長国株式型(GW)	1.63%	3.51%	3.27%	22.46%	58.99%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.0%
投資信託	96.0%
合計	100.0%

## 【参考】新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

(運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

#### <基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
JPM・BRICS5・ファンド	1.9%	3.9%	4.0%	25.2%	109.2%

※騰落率については、基準価額に税引前分配金を再投資して計算しております。  
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。  
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

#### <株式組入上位10銘柄>

(銘柄数 66銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	ルクオイル(ADR)	ロシア	エネルギー	4.15%
2	ナスパーズ	南アフリカ	メディア	3.27%
3	ヴァーレ(ADR)	ブラジル	素材	3.14%
4	HDFC	インド	銀行	2.83%
5	招商銀行	中国	銀行	2.76%
6	HDFC銀行	インド	銀行	2.61%
7	MTNグループ	南アフリカ	電気通信サービス	2.61%
8	ビッドヴェストグループ	南アフリカ	資本財	2.48%
9	パークレイズ・アフリカ・グループ	南アフリカ	銀行	2.43%
10	コタック・マヒンドラ銀行	インド	銀行	2.38%

※マザーファンド・ベース (2014年12月30日現在)  
 ※組入上位10銘柄については、開示基準日がその他の情報と異なります。  
 ※比率は対純資産で計算しています。  
 ※国、業種については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

#### <運用コメント>

##### 市場概況

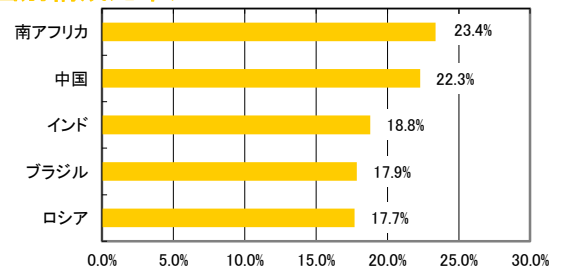
当月、BRICS5カ国を含む新興国株式市場は上昇しました。当月は、統落する原油価格やギリシャのユーロ離脱に対する懸念の高まりを受け、リスク回避姿勢が優勢となり下落して始めました。月央以降は、原油価格に下げ止まり感が出たことに加え、ECB(欧州中央銀行)が量的緩和の導入を発表したことが好感され反発し、月間では上昇となりました。このような市場環境の下、BRICS5カ国の国別ではブラジルを除く全ての国が上昇しました。

##### 運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は16,264円、前月末比+1.9%となりました。
- ・当月は、投資通貨が対円で下落したことは基準価額を押し下げたものの、保有銘柄の株価上昇が基準価額の上昇要因となりました。
- ・組入有価証券に対する国別の投資比率は、南アフリカ、中国は20%を上回る比率となりました。一方でロシア、ブラジル、インドは20%を下回る比率となりました。

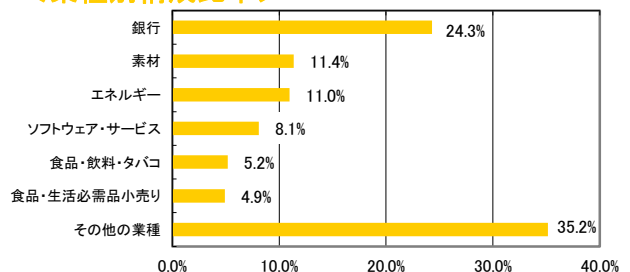
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

#### <国別構成比率>



※マザーファンド・ベース  
 ※比率は組入有価証券を100%として計算しております。  
 ※国別については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。  
 ※中国の構成比率にはMSCI分類における香港を含みます。

#### <業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース  
 ※比率は組入有価証券を100%として計算しております。  
 ※業種については、MSCI24分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

特別勘定名称

# 海外債券型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外債券型(GW)	▲2.42%	5.72%	9.28%	12.57%	41.94%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4%
投資信託	95.6%
合計	100.0%

## 【参考】海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

#### <基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ピムコ海外債券ファンド	▲2.45%	6.28%	10.38%	14.52%	107.33%
ベンチマーク	▲2.85%	5.96%	10.27%	13.88%	82.77%
差異	0.40%	0.32%	0.11%	0.64%	24.56%

※ベンチマークは、シティ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

#### <ファンドの一般特性>

平均クーポン	2.39%
平均直接利回り	2.11%
平均最終利回り	1.41%
平均デュレーション	5.92年
平均償還期間	9.43年
平均格付け*	AA-
債券組入比率	99.48%

※平均格付けとは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

#### <国別構成比>

国名	組入比率
アメリカ	25.57%
ユーロ圏	43.97%
イギリス	14.35%
カナダ	0.15%
メキシコ	6.65%
オーストラリア	4.99%
日本	0.10%
その他	4.23%
合計	100.00%

#### <格付構成比>

格付	組入比率
AAA	35.52%
AA	15.25%
A	13.54%
BBB	16.57%
BB以下	1.48%
A1/P1	17.64%
A2/P2	0.00%
合計	100.00%

#### <種別別配分>

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	84.57%
モーゲージ債、アセットバック債	-2.03%
社債	16.94%
キャッシュ等*	0.52%
合計	100.00%

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

## <運用コメント>

### <市場コメント>

米国債券相場は、原油価格の下落が続く中で世界的な低インフレ懸念が広がったこと、FOMC(米連邦公開市場委員会)が発表した声明が市場ではハト派と受け止められたことがプラス材料となり、上昇しました。(2年債利回りは前月比0.22%低下、10年債利回りは0.53%低下しました。)

ユーロ圏債券相場は、12月ユーロ圏CPI(消費者物価指数)速報値が2009年10月以来のマイナスを記録しデフレ懸念が強まったことに加えて、ECB(欧州中央銀行)が市場予想を上回る規模の資産買入れ策を決定したことがプラス材料となり、上昇しました。(2年債利回りは前月比0.09%低下、10年債利回りは0.24%低下しました。)英国債券相場は、12月製造業PMI(購買担当者景況感指数)や12月英国CPI(消費者物価指数)上昇率が市場予想を下回ったことを受けて、利上げ見通しが後退したことがプラス材料となり、上昇しました。(2年債利回りは前月比0.10%低下、10年債利回りは0.43%低下しました。)

日本債券相場は、日本銀行による国債購入に加え、欧州の追加緩和などの海外要因にも後押しされ、長期ゾーンを中心に上昇しました。(2年債利回りは前月比0.03%上昇、10年債利回りは0.05%低下しました。)

### <パフォーマンス>

先月のパフォーマンスはマイナス2.45%となり、ベンチマークを0.40%上回りました。ユーロに対して米ドルを多めとしていたことやメキシコへの投資を多めとしていたことなどがプラスに寄与し、パフォーマンスはベンチマークを上回る結果となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 日本債券型(GW)

運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本債券型 (GW)	0.19%	▲2.01%	▲2.75%	0.33%	9.86%

## 特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	4.5%
投資信託	95.5%
合計	100.0%

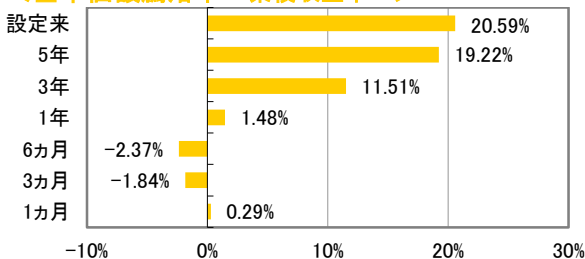
※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

## 【参考】日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

#### <基準価額騰落率-累積収益率->



※累積収益率は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(税引前)を再投資したものと算出。  
※累積収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

#### <組入上位5銘柄の組入比率>

順位	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第17回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2023/09/10	56.6%
2	第18回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2024/03/10	30.4%
3	第19回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2024/09/10	8.5%
4				
5				

#### <資産構成比率>

国内債現物組入銘柄数	3銘柄
公社債の平均残存期間	8.86年

国内債現物	95.5%
国内債先物	0.0%
その他資産	4.5%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。  
※組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。月末の設定・解約の影響により、一時的に100%を超える場合があります。

#### <公社債の残存期間別組入比率>

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年以上3年未満	0.0%
3年以上7年未満	0.0%
7年以上10年未満	95.5%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

## <運用コメント>

### ■先月の投資環境

1月の10年物価連動国債の価格は上昇しました。以下、価格変動の主な要因についてご説明いたします。  
『既に起こった物価の変動要因』の概況: 1月に適用される全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数、以下「コアCPI」といいます。)は前月末対比下落しました(マイナス要因)。  
『将来予想される物価の変動(期待インフレ率※1)要因』の概況: 第19回物価連動国債(以下、「第19回債」といいます。)の期待インフレ率は小幅に上昇しました。月初0.77%で始まった第19回債の期待インフレ率は、上旬に実施された同国債の入札結果が堅調となったものの、原油価格が低迷したことなどから、もみ合いながら推移し、0.78%で月末を迎えました(プラス要因)。  
『金利の変動要因』の概況: 新発10年国債利回り(国内長期金利)は日銀の国債買入れに伴う、需給の引き締まりを背景に低下しました(プラス要因)。

### ■先月の運用概況

金利の変動要因のプラス寄与を主因に基準価額は前月末対比上昇しました。  
当ファンドではマザーファンドを通じポートフォリオを維持しました。この結果、当月末では物価連動国債の実質組入比率を95%程度とし、保有する物価連動国債の平均残存期間は8.9年程度となりました。

### ■今後の運用方針

物価連動国債の投資環境は、短期的には不透明な状況が続くものの、中長期的に良好な展開を想定します。  
短期的には、コアCPIは原油価格の低迷により先行き下振れる可能性があることや、春にかけて季節性の影響により前月対比では低下傾向となると見込まれること、等が下押し材料になると考えます。一方で、①日銀は金融緩和政策を通じて、今後も物価目標達成を目指すものと見込むことや、②原油価格の低下はやや長い目でみれば購買力の上昇を通じて経済にプラスとなり、将来の物価押し上げ要因になると考えること、などから中長期的に物価は上昇傾向で推移するものと予想します。  
このような見通しの下、組入比率を高位に維持しつつ、相対的に割安と考える銘柄に投資して参ります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外リート型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外リート型(GW)	3.66%	19.22%	27.23%	45.33%	26.20%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4%
投資信託	95.6%
合計	100.0%

【参考】海外リート型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ノムラ海外REIT インデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ノムラ海外REIT インデックス・ファンドVA	4.0%	20.6%	29.5%	49.9%	53.2%
ベンチマーク	4.0%	20.9%	30.0%	51.1%	63.4%

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。  
※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

### <資産別配分比率>

資産種別	純資産比
REIT(リート)	96.8%
先物	0.3%
その他の資産	3.2%
合計(※)	-

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。  
※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出してしております。

### <実質通貨配分>

通貨	純資産比
日本・円	2.4%
外貨計	97.6%
アメリカ・ドル	70.0%
ユーロ	6.4%
イギリス・ポンド	6.3%
その他の外貨	15.0%

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

### <国・地域別配分>

国・地域	純資産比
アメリカ	71.7%
オーストラリア	7.7%
イギリス	6.4%
シンガポール	3.2%
オランダ	3.1%
その他の国・地域	8.3%
合計(※)	-

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。

### <REIT 組入上位10銘柄>

	銘柄	国・地域	純資産比
1	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	5.8%
2	PUBLIC STORAGE	アメリカ	2.7%
3	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.6%
4	UNIBAIL RODAMCO-NA	オランダ	2.5%
5	HEALTH CARE REIT INC	アメリカ	2.5%
6	VENTAS INC	アメリカ	2.4%
7	PROLOGIS INC	アメリカ	2.1%
8	AVALONBAY COMMUNITIES INC	アメリカ	2.1%
9	HCP INC	アメリカ	2.0%
10	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	2.0%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出してしております。  
※国・地域は原則発行国・地域で区分してしております。

### <市場コメント>

●欧米の長期金利低下やECB(欧州中央銀行)による量的金融緩和策導入が決定されたことなどを背景に、外国リート市場は上昇しました。ECB(欧州中央銀行)による量的金融緩和策の導入や、海外長期金利の低下に伴う内外金利差の縮小などを背景に、主要通貨は対円で下落(円高)しました。

(野村アセットマネジメント作成)

### <純資産総額>

純資産総額	21.2 億円
-------	---------

### <組入銘柄数>

組入銘柄数	298 銘柄
-------	--------

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。



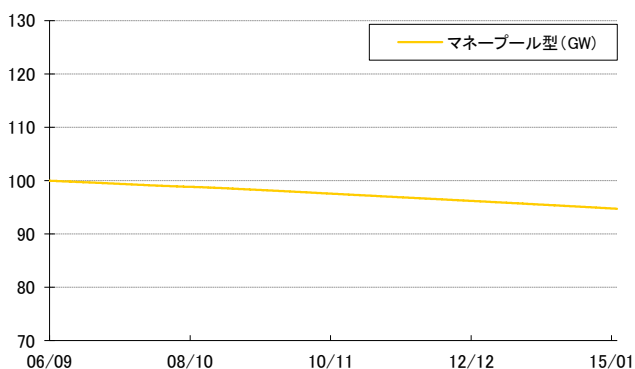
特別勘定名称

# マネープール型(GW)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
マネープール型(GW)	▲0.06%	▲0.19%	▲0.38%	▲0.74%	▲5.27%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金金・その他	9.8%
投資信託	90.2%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

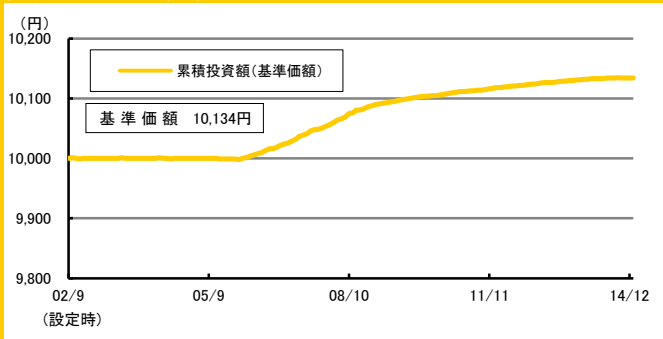
## 【参考】マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

#### 設定来の運用実績 (2015年1月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。  
 ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。  
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。  
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。  
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額 109.7 億円 (2015年1月30日現在)

商品概要	
形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

#### 累積リターン (2015年1月30日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.00%	0.00%	0.00%	0.02%	1.34%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

#### 過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円

#### ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2014年12月30日現在)

##### <資産別組入状況>

債券	55.2%
CP	-
CD	-
現金・その他	44.8%

##### <組入資産格付内訳>

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	55.2%
	A	-
短期債券格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		44.8%

平均残存日数	48.99日
平均残存年数	0.13年

(対純資産総額比率)

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

#### 組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2014年12月30日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第492回 国庫短期証券 2015/02/16	債券	AA/Aa	17.9%
2	第483回 国庫短期証券 2015/01/13	債券	AA/Aa	14.3%
3	第500回 国庫短期証券 2015/03/23	債券	AA/Aa	12.9%
4	第488回 国庫短期証券 2015/01/26	債券	AA/Aa	4.3%
5	第502回 国庫短期証券 2015/03/30	債券	AA/Aa	3.6%
6	第493回 国庫短期証券 2015/02/23	債券	AA/Aa	1.4%
7	第497回 国庫短期証券 2015/03/16	債券	AA/Aa	0.7%
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数: 7)

上位10銘柄合計 55.2%

(対純資産総額比率)

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## ご注意いただきたい事項

### ▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

### ▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

### ▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して <b>5.0%</b> を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して <b>(年率0.75%+運用実績に応じた費用<sup>(※)</sup>)/365日</b> を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用：運用実績を毎日判定し、運用実績が <b>年率1.5%を超過</b> した場合のみ、 <b>超過分1%あたり0.1%(上限1.25%)</b> を控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 <b>移転一回につき1,000円</b> を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の <b>1%</b> を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(GW) <b>年率0.432%程度</b>
	日本株アクティブ型(GW) <b>年率0.9504%程度</b>
	海外株式型(GW) <b>年率0.4104%程度</b>
	新興成長国株式型(GW) <b>年率1.188%程度</b>
	海外債券型(GW) <b>年率0.9396%程度</b>
	日本債券型(GW) <b>年率0.2592%~0.378%程度</b>
	海外リート型(GW) <b>年率0.432%程度</b>
	マネープール型(GW) <b>年率0.00918%~0.54%程度</b>

資産運用関係費は将来変更されることがあります。その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

## その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「ダイレクト年金 e-VA」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「ダイレクト年金 e-VA」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険（無配当）特別勘定グループ(GW)「ダイレクト年金 e-VA」は現在販売していません。